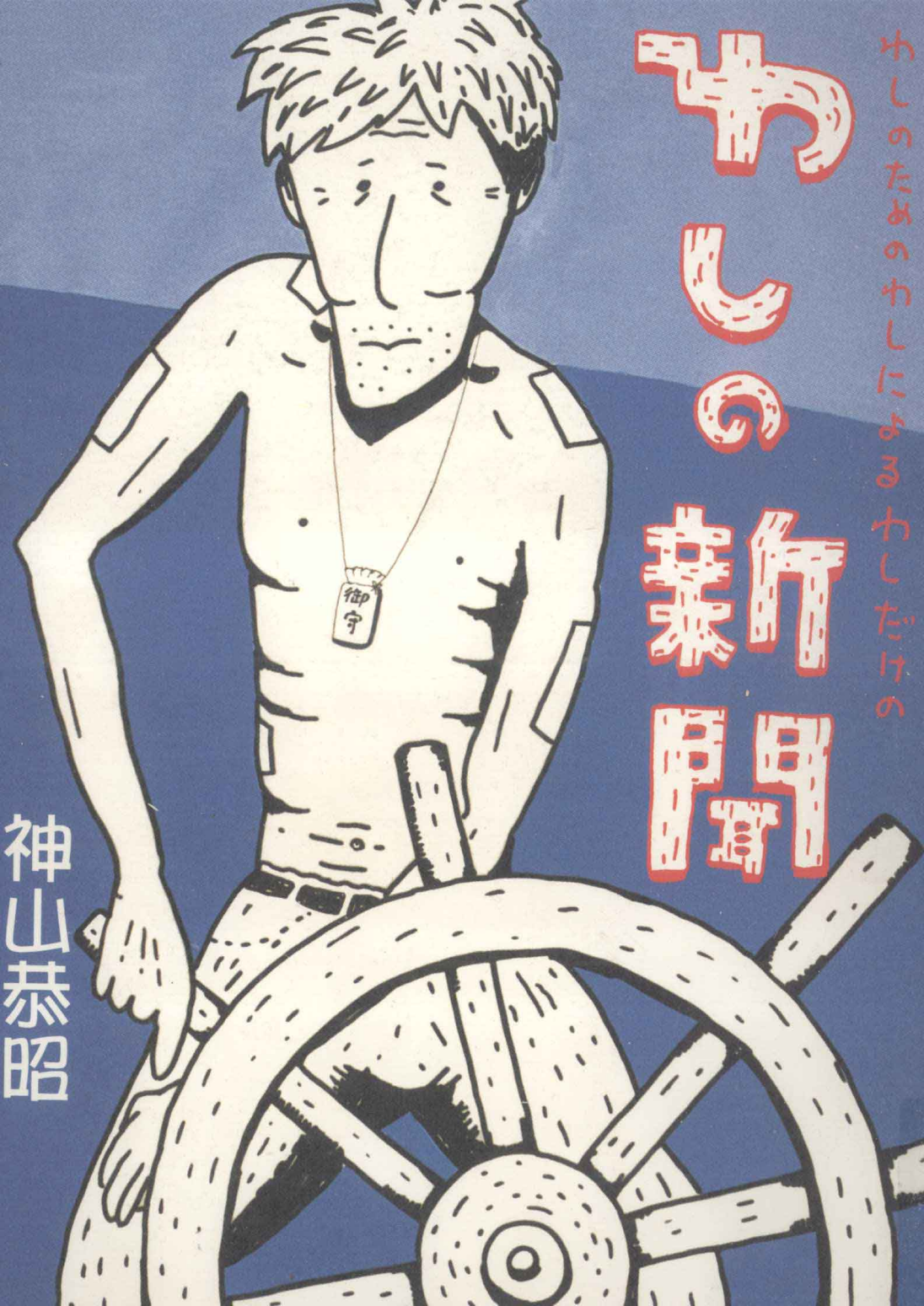


わしのためわしにやるわしだけの

わし の 新 聞



神山恭昭

神山恭昭（こうやますあき）

1949年生まれ。1955年丸山幼稚園卒。
著書に『丸山住宅ものがたり』（'86）、
『いつもの絵日記』（'88）、『浮游蕩蕩』
（'92 共著）、『電信柱と寂しい夜』（'96）
がある。「どへた展」（'91 画廊「歩羅
亜野」）、「大どへた展」（'92 フジグラン
松山・アートギャラリー）、「携帯
用別荘展」（'98 ギャラリー・リブア
ート）を開催。松山市在住。

わしの新聞

1998年4月23日 第一刷発行 定価1680円（本体1600円＋税）

著者 神山 恭昭

発行者 大早 友章

発行所 創風社出版

〒791-8068 松山市みどりヶ丘9-8

TEL.089-953-3153 FAX.089-953-3103 振替 01630-7-14660

印刷・製本 創風社＋㈱松栄印刷所

©Yasuaki Kouyama 1998 ISBN 4-915699-66-8

ためのわしによるわしだけの
しの新聞

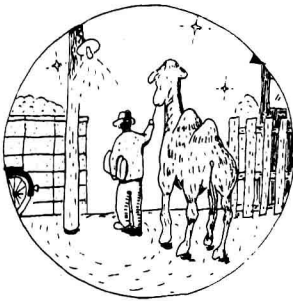
神山恭昭

創風社出版



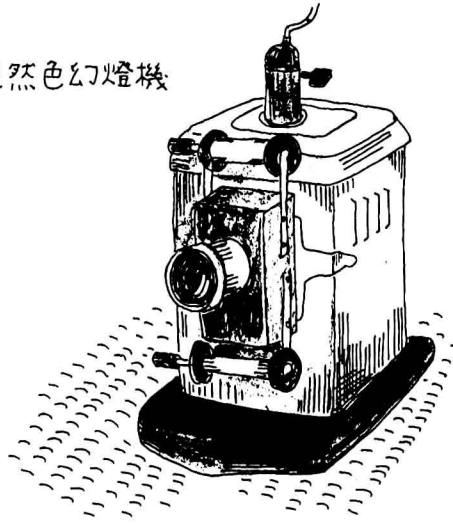
わしの新聞 目次

わしの新聞	……	5
俳句絵日記	……	57
下駄日記	……	115
私の新聞	……	151
松山の兄弟へ		
・松山の兄弟へ	深澤久雄	214
・あとがきのかわりに	神山恭昭	220



わしのためのわしによるわしだけの
わしの新聞

天然色幻燈機



特価 三八〇円
荷送送料 七〇円

わしの新聞
No. 1

「くらが子供の頃は自分のことを「わし」と呼んでいました。「ぼく」なんが言うのは、よ、ぼく小さい子がお金持ち(というてもたいた金持ちはおらんか、て、皆言えや、た)ぐらいて「ぼく」なんが恥ずかしいと言えんかった。

恥ずかしいと言ったら、その頃は親と遊ぶのは恥ずかしいことやった。ほやの今は、親が子供と遊んだらんといけん。ほやないとすぐTVゲームみたいなのして一日ゴロゴロします。ほれと、休みの日はじっかへ連れて行ったらんといけん。ほうせんか、たらスキンシップ不足で、子供にバツトびしわがゆるかも知れん。今の親は大変です。

昔の親はよかった。子供おこりとばしとたらよかったのですけん。

「ぼくも急に自分のことを「わし」と呼ぶようになった。ほやからこの新聞も「わしの新聞」です。けんじ、今は自分のこと「わし」まじりの恥ずかしい。



と足ちがいたという話。朝、六時前散歩しとたら、ゴミ置き場にアシタックな扇風機が捨ててありました。よう見るとなかなか上物です。迷った末、人目を気にして、自転車ごとと拾って帰ることにしました。

急いで自転車ごとりに帰り、ゴミ置き場に引き返す途中、おれさんの人がこちらへ向ってくるのに会いました。

わしのためのわしだけの

新聞
WASHI No. 1 SINBUN
発行人・ 神山恭昭

して、すれちがひざまに、おれさんの自転車の荷台を見ると、多くの扇風機があとをのこりまわります。ほんの三分ぐらゐと足ちがいた。ほんの三分ぐらゐ。最初みた時、人目を気にせず、手で吊げて帰ったらよかった。人目を気にしとたら人生損します。皆さんも頑張ってください。とこころでこの新聞を捨ててしまった

ら、くらが自分のことを「わし」と呼んでた頃に比べ物が豊かになったなうと思えます。けんじ、本当の豊かさいうたら何じゃやう。「豊かさとは何か(おれが動機)でも読んで考えることにしました。」



「親と子はよくと子供らの事を中心に書いて、たんですけど、ちよつと拡がって、いろんな事やいろんな人のことを書こうと思ひます。もちろん子供のことも。ほやけんタイトルも「親と子」や「親と親せき」とか「親と友だち」とか「親と中東情勢」か「親と老人問題」などと、そのたんびに変えんといけんのですけん。でもおれさんめいんどくさいので、自分が中心ということ「わしの新聞」ということにしました。



昔は「わし」「おれ」「あたし」今は「ぼく」「おれ」「わたし」

WASHI NO SINBUN

NO. 2

「教養身につつけ月間」

くは自慢じゃないけん
足しとする方々と思ひます。
木や花の名前もほとんど知らんし・魚や野菜や魚の名前もよう知らん。一度・お堀で「首の短い白鳥やなア」と興ざんに言うたら、「あれはアヒルやないですか」と言われてしまいました。人の名前も知らん。政治家や学者や有名名人・運動選手もあんま知らん。野球選手いうたら川上哲治や長嶋茂雄ぐらしか知らんのです。常識もあんましない。諺で「馬子にも衣袋」というのは「孫にも衣袋」と、つい最近まで思うようになりました。じいさんが孫にええ版着せて、

・神山恭太郎(鬼子)が大きいなって、版が共用でいけるようになった。



顔がたら若しいやね

お父さん、お母さん、お孫さん

「うちの孫もええ版着せたら立派に見えるぬや。ばあさん」いうて感心しとるところを想像してしもとりました。

知らんことは他にもようけあります。漢字もあんまり知らんけん・平仮名を使うことが多いたまに漢字を使こうたら、間違ごうてし
まいます。
おまけに
字が
悪い。
小学
校へ
行きよる娘の方がはるかに字がええのです。
つくづくこわではいけないと思ひ、今月を「教養身につつけ月間」とすることにしました。
用意した本



1 チャート式「漢文」(拾った)

2 まんが学語

3 イミダス1988年版(3年前)

4 小学生 世界人名事典 (子供に借りた)

5 学力とは何か (図書館で借りた)

6 教養としての世界史 (右に同じ)

7 まんが伝記事典 (右に同じ)

8 遊んで強くなる漢字の本(こどもはこども)

「お父さん。ぼく鈴鹿サーキットへ行きたい。行ってF1レースを見て見たい」と神山恭太郎が言った。
「うーん。鈴鹿か。鈴鹿は遠いわい丸亀やたら近いぞ。あそこはポーターレースしとる。なんも松山でも競輪しよるかぬ」



「お父さん。ぼく鈴鹿サーキットへ行きたい。行ってF1レースを見て見たい」と神山恭太郎が言った。
「うーん。鈴鹿か。鈴鹿は遠いわい丸亀やたら近いぞ。あそこはポーターレースしとる。なんも松山でも競輪しよるかぬ」

神山恭太郎はもう返事もせえへん。

堀内さんもぼくもまじめ人間です。まじめが販をきて歩いとるような↓



詩人の堀内統義(とらぎ)さんのこと

わしのための新聞

詩人の堀内統義(とらぎ)さんは隣の朝美に住んどります。いっしょに夕刊の仕事をするようになってからは、お互いがよう行き来するようになりました。

堀内さんとぼくは三十六・七年前も近所同土や、たことがあります。その頃ぼくの一家は大加賀のゴム工場の倉庫にひっそりと住んどて、堀内さんの一家は近くの白楊会館というところで複数の家族と賑やかに暮らしてたそうです。もちろん、その頃はお互いを知りませんでした。

堀内さんはぼくと遠ざかる。ちやんとしたエッセイや詩を作った、て「嘘(うそ)の島の懸崖(けんがい)」(創風社)という本は、今年の愛媛出版文化賞をとりました。

現代詩いうものはなんか、とっつきぬくいけれど、次の詩はおもしろいと思います。『よまだかんとりーがもうす』という題です。

あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや

あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや

あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや
あしは伊予のよまだがけんぬや

わしのための新聞

WASHI NO SINBUN
発行人 神山恭昭

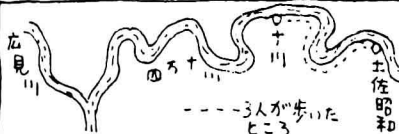


ところどころこの堀内さんところこの堀内さんところこの堀内さんところこの堀内さんところこの堀内さんところこの堀内さんところこの堀内さんところこの堀内さんところこの堀内さんところこの堀内さん



紙相中業に深夜までぶける堀内さん

もんです。これからはまじめの時代です。たぶん。どはは……。



WASHI
SINBUN

四万十川とわし

いつも近所ざりうろざり
とると思たら大層遠いぞ、わ
しらども遠くへ行く事がある
のです。

息子の神山恭太が小学を卒業したので、記念に旅行をすることにしました。わしと神山恭太と友人の下松一郎氏(注)の三人で「日本最後の清流」四万十川を歩いて下るとういものです。

別に四万十川どのうても、奥信川でも宮前川でもええのですけど、この「日本最後の清流」といふのにお調子ものの三人は乗せられちゃうたのです。

最初の計画では「テントに泊り、四万十川の水で飯盒炊さんしながら太平洋まで三日ほどかけて歩いて下る」というもんや、たんですけど、休みがとやず、「宇和島のび

ジネスホテルへ泊って、翌朝、汽車で適當なところまで行き、四万十川の水でインスタントラーメンを作り、ちよつとだけ歩くしというもんは、グラクしてしまいました。

「やや肥満」に悩む神山恭太と、かなり腹の出た下松一郎氏は「今度の旅では歩きまわってヤバるけんのオー」とはりきったの、二人はビジネスホテルを深夜ゆけ出し、ラーメンの大成盛りとギョーザを喰い、のどがかわいたと言つては、ビールだジュースだとかばがば飲んだりしました。

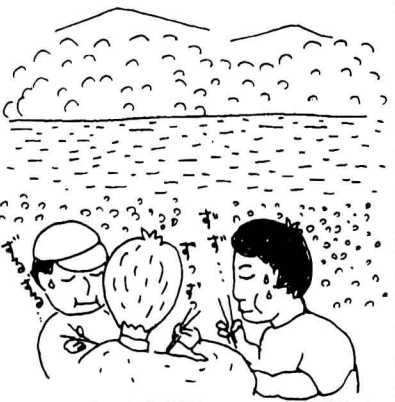
わしのためのわしだけの

☆

わしの間の新刊

発行人 神山恭昭

翌日も、あなご巻き、いづみ



マ、あんぱん、菓子ぱんなどを買いこみ、うはうはと喰い、四万十川の水で作ったラーメンをすすると汁まじすいあげ、またビールだジュースだ、うーロン茶だオロチだと飲みまくり、反省の色の全くない二人やったのです。

ほれで、四万十川はどうやったのかという、飲み喰いに忙しいて、印象が薄か、たんで、夏にもう一度来て、今度は太平洋まで全部歩いたろうということになったのです。



職歴を持つ。戦車から三輪車まで乗りこなす。共働きが長いので料理・洗濯・掃除が上手。

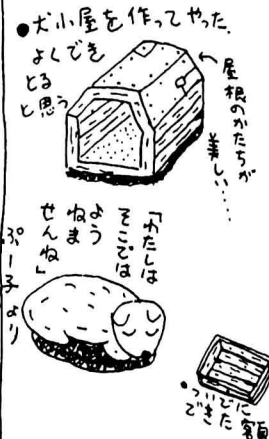
わしの新聞
No.5

いぬのぷり子

長男の神山恭太が犬を飼うことを考えただけで身ぶるいがするくらいうれしいと言うて、犬を飼え犬を飼えとわめく。



まあ小さな動物を通して、生命の大事さを知るのはええことやと思ひ、タダでくれる新聞の「あげますコーナー」で知った南斎院の川口さんという人のところへ子犬をもらいに自転車でいきました。タダでもらうのは悪いと思おうて、五〇〇円(税別)のシュークリームを持っていったら、南斎院の川口さんはえらい恐縮さねりました。



さて同じ頃、神山恭太の同級生・はまだくんの家でも犬を飼うことになり、ペットショップで小犬を買ったんですけど、それが今話題のシベリアンハスキー犬で一〇万円(税別)もしたんですよ。ほれからはまだくんのおとうさんがタラの材木卸業まで足を運んで、木材を吟味し、選り抜いた材料で犬の家を作ったんですよ。もちろんわしも犬小屋をこしらえてやりました。拾ってきたトロボ箱と家にあつた古材とでこしらえたら、木が余つて、額縁まで出来てしまいました。ほやのにこのわしの愛情にもかかわらず、うちの犬(ぷり子

わしのためのわしだけの

☆ 新聞 ☆

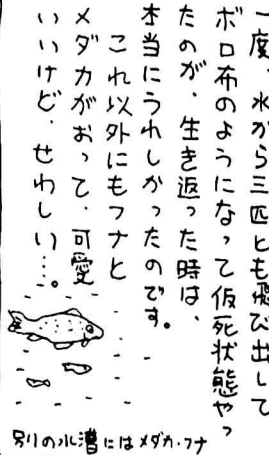
WASHI NO SINBUN

発行人・神山恭昭

といひます)はこの犬小屋に寝んど外で寝ります。覚えとわぬ……



他に爺が家には一生水の中を暮らすアフリカツメガエルというのがあつて、エサをやるに、手を叩いて喜ぶ(ように見える)のどエサをやる人は、単紙に喜んでしまいます。一度、水から三匹も飛び出して、ボロボロのようになつて、仮死状態だったので、生き返った時は、本当にうれしかったのです。これ以外にもフナとメダカがあつて、可愛らしいけど、せわしい……





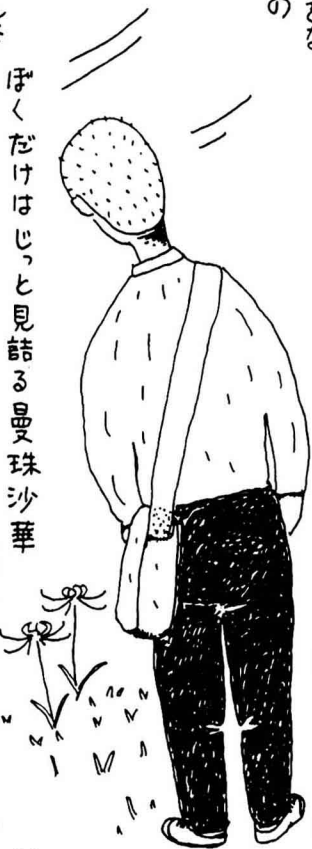
わしの 交友録 小西昭夫の巻

小西昭夫さんは子規や坪内穂典
ら俳人の研究が賞をな
んぼも取ったことの
ある若き俳句の理
論家として知ら
れとります。ほ
れとります。ほ
して自分でも俳
句を作っとりま
す。

ぼくは俳句いう
もんも苦手で、どんな
立派な俳句でも、そのあとに
「それがどうした さのよいよい」
とつい出てきて、コケこしまいます。
例えば、

古池や蛙飛び込む水の音
それがどうした さのよいよい
という具合です。

ほれが小西さんの個人誌「寺
村つうしん」(これがええのぞ)の
中で、ぼくが小西さんの俳句に
絵をつけようちに、俳句も面
白もんやなあと思うようにな
ってました。



小西昭夫

ぼくだけはじっと見詰る曼珠沙華
ぼくのおきな小西さんの俳句
を並べてみます。

桜散る今頃夢を裏がえす
六月の竹輪の穴の緑のきざり
丹ざねて眞昼を眠る蝮虫類

サングルを揃えて脱げば死にたくなる
本森に構む古き映画と狼と
ひたすうに便器を磨く秋の暮
ゲイバーを出れば静かな雪の夜
スペインで暮らす哀しみ牡丹雪

どれもせつのうて好きな人びすけ
ら、最後の句は言
いようのない気分
になります。

小西さんは
人が俳句を
作るのは、連
前だけで生き
てゐる日常の中
で、本音で生きた

い、本音の自分をさ
らしたい、本音の自分
を解く、欲しいという気持
ちが働くからなんだと言います。
そこでぼくも俳句をひとつ作るこ
とにしました。

ぬけビール下駄と自転車秋の風
それがどうした さのよいよい
だめじゃーこりゃー

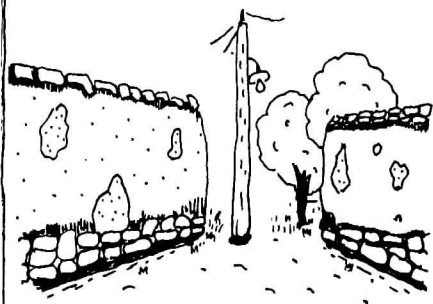
この間うちの駄犬フーズを自転車の後に乗せて避妊手術を受けに行きました。

新聞 No. 7

古のぼん・ぼろのぼん

ぼくはこんなところどうい
う訳か古いもん・ぼろい建
物に心をひかれるようになって

ってきました。
崩れかけの土塀や壁の落ちかけた
土蔵・人の住まんようになった古い
家なんかを見じつたら・なんぞ可愛
おしくなるのびす。
さうんと修復されて手入れの行き
届いた古い建物は、それはそれごな



かなかえ
えんごす
けい・や
っぱりぼ
くは放か
っと、た
ら、この
まま朽ち
このうな
ってしま
いそうな
もんに目

が行、てしまします。

古い建物やぼろい建物を見と
つたら、へんに心が休まるよう
になりました。ついこの前まで
こんな気中にはならんかったけ
ど、自分も年齢をとって、ぼろ
うになりかけてきたけんかも知
れませぬ。
「長いこ
じご苦労
さんや、
たなア。
もう崩れ
てもええ
けど、ぼ
くが生き
とる間ぐ
らいもう
ちよっと頑張って下さい」と崩
れかけの土塀の頭をなでながら、
ぼくは言います。

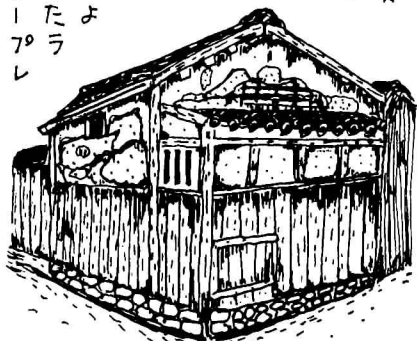
わしのためのわした"けのわしによる

し の 新 聞

WASHI NO SHINBUN
発行人 神山蒸昭

建物だけやのうて、ぼろうな
ってもなかなかよう捨てれんも
んがいろいろあります。
昔の手紙やメモ・子供が小さ

か、た頃



の作文セ
絵・も
うフイ
ルムの
売、こ
ない8%
カメラ・
音の出んよ
うになつたら
ジオヤテアフレ
コーダー・乗れんように
なった自転車・高校の時から使こう
とる(なんと27年間)雨がッパ・消
火栓の箱・たぬきの置物・海岸の漂
流物・戸棚の戸だけ・拾うてきた板
きれ・ちびた下駄・ゆれたウス・底
のぬけた火ばち・年老いた両親など
なび……。



可哀いそうせけび仕方ありません。ほやけど”犬”を自転車に乗せて走る人はムズカシイ……。

No. 8

自転車乗っけけんぬー

「ぼくは昭和30年代のはじめからずーと自転車に乗っけてます。その頃の友だちも皆、偉ろろなってる。今はオートバイや自動車やヨットや飛行機なんかに乗っけるけど、ぼくだけはあの頃と同じ止ったきりで、毎日、自転車を転がしてります。

「土地転がし」「や」「じじ転がし」はお金になるんやぞうでずけんじ。「自転車転がし」はしんどいだけです。なのになぜぼくは自転車に乗るのか？

自転車は燃料も要らんし、排気ガスも出んし、その次に

Zzz

おとうのぼくが



な、たら世界一周も出来る。免許もいらん。松山は平べったい土地が多いけん、自転車でたいこのところや、たら行けます。と、理由はいろいろあるけん、ど、本当は自転車しかぼくはもう乗らんのです。



ぼやけんりやでも自転車をは好きにならんといかんのです。本を読んじつても「自転車」いうのがひとりごに目にとびこんできます。阿部昭二さんの「自転車」という短編小説は、粗大ゴミの自転車を拾いに行つて、気がついてみたら一家中ゴミの山に頭

を、込んで、ゴミあさりをやつたという内容で、ぼくの大好きな小説です。

ぼくと地元の現代詩の長老、山本耕一路 (やまもとこういち) さんの「自転車になった男」という詩も好きです。あくまでも彼は精密な部品の一部であること、自転車を思っているのだ。

今年もやっぱりぼくは自転車でぞりこぎいこと松山中を走るんやろうなうと正月早々考えたりします。今年もよろしうた。

自転車しか乗らん中年男の思いこつて、自転車をかついで逃げる冬々の坂、また合掌社丹野自転車中年男のすけろん



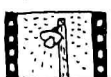
わしの新聞

冬が終つて春が来ます。冬の間の日記です。この冬の総決算(と言うほどのもの)じゃないけれどござす。



11月24日 晩ごはんの時、モモ子の顔の上をゴキブリが這うたんで大パニックとなつてしまふ。

12月1日 モモ子「じんせいがあるよー」とぼやいてる。



12月5日 近所の電柱や外灯を写した写真を幻灯機でナナ子とモモ子に見せる。何が面白いのか、二人はうれしそうに見とる。こんなもん子供に見せるとるべくも変つてるけど、そゆを見て喜んでるこの二人も相当変わつてる。

12月11日 作品展のために夜、専らと自転車で材料を運ぶ。自転車で運べる量をはるかに越えとるので、こんな時にリヤカーがあったらなァとつくづく思う。今夜のぼくらは夜の逃げの中年夫婦という感じだ。

12月19日 足算がよう出来るのどほめてやったたら、モモ子、「そんなぐらいたまにゆびをぶちこんだらわかるわい」と言う。

12月22日 恭太、「わあーう寝れるぬー。わあー気持う悪うなつてきた。」

12月23日 休日。朝から恭太と二人だけ。昼めしにお好み焼きを作る。自分ではうまく出来たと思おたけど、恭太はそうでもないと言う。ヤケクソ道具のかわりに冷飯や納豆を入れてヤ

わしのためのわしによるわしだけの

新聞

WASI NO SINBUN

発行人・神山恭昭 (こうま やまあき)

つたら、なおのことますますなつたわめく。

12月24日 友だちの大早くんよりこんにやく四個をもらう。クリスマスプレゼントのつもりやろうか?



1月2日 重信町まで恭太と歩いていく。そゆはえんやけど、道中四度も小便をする。恭太が言うように自分はゆるんじんのやろうが。

1月19日 雨の中、濡れながら帰ってきた恭太、「いきなり「大阪のおいちゃんどうなつたん?」とまじく。去年の秋、皆で大阪へ見舞いに行つたんやけど、今日の昼頃、専の叔父さんは亡うなつた。恭太はそのことを知らない。



2月6日 晩ごはんのあと、ナナ子がスープをなめとる。「下品なこと」



「下品なこと」を怒つたら、目閉じておちよぼ口をして、やっぱり皿をなめとる。なんもわかつたらん!

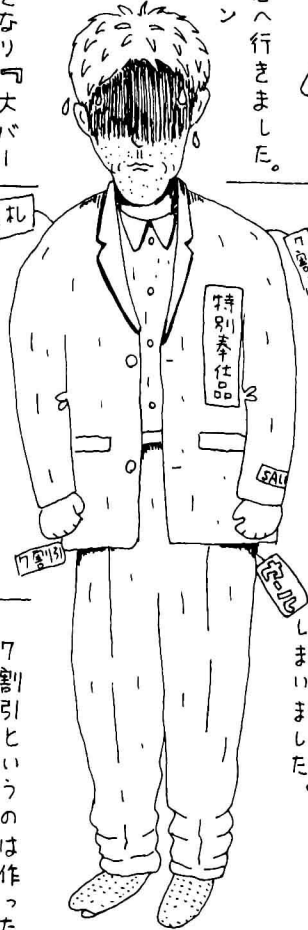
★
 かしのためのかしによる かしだけの
かしの新聞
 発行人 神山恭昭
 No.10

7割引の背広

近所の大型紳士服店へ行きました。ぼくも一応サラリーマン

やかから、いつも同じのをはいとるといいうのもなんなので、替ズボンを買おうと思っただのです。

店に入ったら、いきなり『大バーゲン背広6〜8割引』というのがありました。定価のも割ではなく、も割引なのです。いっしょに来ったカミさん(ぼくは一人では服をよう買に行きません。いっぺん一人で行って妙な人を買ってしもて。そ水からは、ついてくるようになったのです)が、



「これにおし。値段の割にええ」と7割引の背広を選びました。試着室で着たら、カミさんが別の背広を持ってきて、「これは9割引やと。着とおみ」と、うしろに言いました。「これもええなア。ほやけど、」

「9割引というのは……」と思いつながら、観察してたら、上着にポケットがあります。いや切小目はあるけど飾りです。「なんぼ安かったて、ポケットがなかったらなア……」と、あきらめました。

昔、スーパーのワゴンに山積みしてあったスニーカーが500円均一で、なかなかカッコよかったのがあったんですけど、必死で探しても、ぼくにあうサイズのは左側だけしかありません。なんぼ安かったて、左側だけ二つ買うことも、しょうがないのであきらめたことを思い出してしまいました。

●この背広は21年前ぼくがはじめて買った背広よりも安かったです。

7割引というのは作った人に申し訳ない、気の毒なア……と思いつながら、結局この日、これを買ってしもうたのです。ほやけど、7割引の背広を着たら、中身も7割引の間みみたいな気分になつてきて……。まあ、そのとおりヤから仕方ないけど。